

神奈川県議会議員(茅ヶ崎市選出)



くさか景子の

No. 59

県議会報告

2012.4

ちょっと

よろしいですか!

と



柳島下水処理場の放射性セシウムを含む焼却灰

やっと3月 保管の建屋完成!

福島原発事故の影響により、県管理下水処理場の汚泥及び焼却灰から放射性物質が検出されたことから、昨年5月以降、焼却灰の再利用に向けた搬出ができず、新しい埋立処分先を確保することも困難で、現在約 2,794tの焼却灰を屋外で保管しています。

焼却灰は飛散しないよう土嚢に詰め、ブルーシートで覆って保管されており、私も再三訪れ、放射線量のチェックをしてきました。本来なら、12月に建屋が出来る予定が、建築確認が遅れ、機材の調達も遅れ、やっと建屋が完成し、焼却灰は、屋内に搬入されます。



下水道処理場にできた焼却灰保管建屋

1棟 3,700万円を3棟、ポリエステル製の布、フッ素樹脂コーティングで耐

しかし、問題は、「建屋に収めれば安全なのか?」そして、「このままずっと半永久的に焼却灰を保管していくのか?」ということです。

今回も調査に行き、放射線量を測りました。前回と同じ、袋の上からは0.25マイクロシーベルト、6m離れたら0.05マイクロシーベルトでした。線量は問題なくても長期間外に置きっぱなしはやはり危険であり、建屋に収めればとどろあえず今よりは良くなります。



野積みされている焼却灰

最近の焼却灰は 615 ベクレル/kg、昨年5月の最大値 4,424 ベクレル/kg と比べるとかなり低くなっており、再利用の搬出を再開しているため、保管量は減っては行く予定です。

終末処理場を持つ茅ヶ崎市だけでなく、広域で負担できないか、国が責任を持って処理方法を明示していけるよう根本的解決策が求められます。

今後も、市民に、正しい情報公開を行い、安全を私も厳しくチェックしていきます。



これでも再び原発を動かすというのか！

3.11 福島を訪れて

東日本大震災 3月11日から1年がたちました。今年、私は福島県郡山市の野球場での集会に参加し、**16,000人**と共に14時46分黙祷を捧げました。

オープニングコンサート加藤登紀子さんの歌「いまどこにいますか？」を聞きながら、大勢の亡くなられた方を想い涙があふれました。その後の大江健三郎さんのメッセージや被災された県民の訴えに耳を傾けると、1年経ってもその傷は癒えることはないことを思い知らされました。

夕方は、16,000人のデモ行進、全国各地から平和団体、労働組合、生協、脱原発運動団体などそれぞれの旗をなびかせながら寒空のなか市内中「原発いらない」を訴えました。



福島県民大集会に参加して



行き場のない大量の災害廃棄物

翌日、震災復興状況視察・原発影響確認コースというツアーに参加しました。雪の舞う寒い郡山から飯館村に向かうと持っていた線量計がピーピーとなり続く。**0.3** マイクロシーベルトをずっと超える状態で、高いところは1.46、(茅ヶ崎では0.05が普通)。飯館村は全村民避難対象で原則住んでいません。店舗は全部閉まり、ガソリンスタンドが1軒、室内は線量チェックすれば一応許可されているので、老人ホームや工場1軒だけは開いていました。役場は5人だけ残って住民サービスをしています。日本一美しい町が、一瞬で壊れてしまいました。

その後、南相馬市萱浜(かいほま)地区津波被害状況を視察しました。がれき、災害廃棄物は片付けられて一か所に集められましたが、その行き場はまだありません。福島のがれきは、いまだに他の地域に搬出できていないのです。案内してくれた南相馬の職員労働組合委員長の鈴木さんに話を伺うと、「除塩、除染しないと田んぼは再生できない。その見通しはまだたっていない。」とのことでした。

引き続き、お米から放射線セシウムがでて、お米が作れなくなってしまった霊山(りょうぜん)地区に入ると、線量計は**1.05** マイクロシーベルト以上、ある建物の雨どいはなんと**63.5** マイクロシーベルト、本日最高値を検出。

当然のこと、外には人は歩いてはいない。こんな中でも人々はそこに暮らさなければならない。自主避難もそう簡単にはいきません。福島にどう手をさしのべていいのか？今回の旅で、原発はいらない！とさらに思いを強く持ちました。